

6. 北陸（地域別調査機関：（財）北陸経済研究所）

（ - ：回答が存在しない、 : 主だった回答等が存在しない）

分野	景気の先行き判断	業種・職種	景気の先行きに対する判断理由
家計動向関連	良くなる やや良くなる	-	-
		一般小売店〔精肉〕（店長）	・ 来客数が伸びなかった原因は断続的な降雪の影響であり、気候が良くなればそれほど来客数に影響を与えない。
		一般小売店〔書籍〕（従業員）	・ 前年の同時期と比較すれば、新学期を迎え新規客の増加などに期待できる。
		百貨店（売場主任）	・ 前年の東日本大震災の影響による売上低下の反動はある。
		百貨店（営業担当）	・ 人が動く時期でもあり、ギフト関連商品が、例年よりは顕著な動きになると予測している。ただし、従来型のギフトからパーソナル志向が高くなり、金額より内容の充実志向がみられ、ギフト全般は上向くとみている。
		スーパー（店長）	・ 東日本大震災の自粛ムードも解け、ハレの行事でもてなし商品は前年より良くなるであろう。
		コンビニ（店長）	・ 前年末からの前年同月実績をクリアできない推移をみていると完全復活とまではいかないまでも、雪の影響がなくなれば、例年並みには戻るはずである。
		乗用車販売店（経理担当）	・ 話題性のある新型車もあり、業界としては春先以降も好調さを維持できる環境にある。
		その他専門店〔医薬品〕（総務担当）	・ 今年の花粉飛散量の予報では、前年比で3割減となっているので、花粉症関連の鼻炎薬、マスクの売上は前年比で減少すると思われる。一方、3か月予報では、暑くなるとの予想が40%となっていることから制汗剤の販売が増加するなど物の動きが活発になることから景気はよくなると思う。
		一般レストラン（店長）	・ 近隣の大型小売店が再オープンするため、来客数は多くなるであろう。
		都市型ホテル（スタッフ）	・ 前年の東日本大震災の影響を差し引いても、予約は順調に入っている。
		競輪場（職員）	・ ビッグレース開催や4か月ぶりに実施される本場開催が控えているので、やや良くなるものと期待している。
		その他レジャー施設（職員）	・ 大雪の反動で春先の動きは良くなる。
		住宅販売会社（経営者）	・ 客の様子からするとやや良くなる雰囲気がある。
住宅販売会社（従業員）	・ 復興支援・住宅エコポイントの申請受け付けが開始されたことにより、受注が増加傾向にあり、今後客の動きがさらに活発になることが予想される。		
変わらない	変わらない	商店街（代表者）	・ 消費意欲が向上するような状況にない。
		商店街（代表者）	・ 値上げが予想されるものが結構あり、その分をどこで削るかを消費者は考えている。結局は消費を減らすしかなく、従来以上の消費は期待できない。
		百貨店（営業担当）	・ 最近のセールの様子を見ていると、安くても必要のないものは買わない、また、春物、新作の動きをみても良いものは買うが、数はでない状況になっている。今後の本格的春物商戦では、良いもの、必要なものは買ってもらえるであろうが、点数、来客数は前年を上回ることはないであろう。
		百貨店（営業担当）	・ セレモニーやブライダルシーズンに突入り購買意欲が出てくる。
		百貨店（売場担当）	・ 現状は衣料品、雑貨、食品まで、前年売上実績に届かず、品定めにかかりの時間をかけ、最低限必要なものだけを購入している。雪が解け、気温が上昇すれば回復も見込めるが、不安定な状況は続くものと思われる。
		スーパー（店長）	・ 2、3か月といった短期間での変化は予想されない。
		スーパー（総務担当）	・ スーパー業界は競争激化が進み厳しい状況である。回復要因もないが、悪化する要因もこの2～3か月では消費に反映しない。
		コンビニ（経営者）	・ 現状、店内調理のファストフード類、たばこの売上は調子が良いが、日用品など近隣のドラッグストアと重複している商品の売上は、前年をかなり下回っている。近隣のドラッグストアの改装もあり、当店に影響を及ぼす品ぞろえとなっているため、売上は伸びにくい状況が続く。
		コンビニ（店舗管理）	・ 電気料金値上げや消費税のアップと家計を圧迫する負の話題が飛び交っており、良くなる要因が見当たらない。
		衣料品専門店（経営者）	・ 天候などに大きく左右され、なかなか予定以上の売上は確保できず、厳しい状況が続く。
		家電量販店（経営者）	・ 震災後1年が経過するが、依然として原子力発電所問題や電気料金値上げなどの課題が解決される見通しがたっておらず、家電を売る側としては不透明感が漂う。
		家電量販店（店長）	・ 必要な商品以外は購入見込みはなさそうである。オール電化の伸びしろで、前年実績を維持できる状況である。

	乗用車販売店（経営者）	・高額車の需要が低下し、エコカー中心の需要傾向は当分続きそうである。売れる車種は限定的で全体では変わらない。
	自動車備品販売店（従業員）	・エコカー補助金の影響で新車待ちの客が多いが、用品付加、オプション以外での購買要望が低く恩恵は小さい。
	その他専門店〔酒〕（経営者）	・景気が良くなる条件が、政治的にも、社会的にもない。
	高級レストラン（スタッフ）	・春の受注は、例年より夜の集客が1割ほど多く、好調に推移しているが、全体的には変化はない。
	一般レストラン（スタッフ）	・現行のエコカー減税廃止前に車を買替えることや円高で海外旅行に行くような消費の話題より、消費税値上げや年金受給のことなど将来に対する不安、税金の使い道などの話題が多い。消費に対しては堅実でムダ使いはしない傾向が続く。
	観光型旅館（経営者）	・春以降は、東北地方の復興支援や東京スカイツリー、大河ドラマなどで人の流れが東と西に流れて、北陸地方には厳しい状況になる。
	都市型ホテル（スタッフ）	・東日本大震災から1年を迎え、各種行事が続くなかで自粛により消費者心理の冷え込みが懸念されるものの、景気そのものを下振れさせる程の勢いとはならない。
	旅行代理店（従業員）	・外的要因に左右される観光業界では、まだまだ不確定要素が多く、客の心理は冷え切ったままで、多くを期待できない状況である。
	タクシー運転手	・天気が回復した2月後半は稼働率が落ちたので、春めいてくる季節であればなおさら稼働率が上がることはないであろう。
	通信会社（職員）	・客は、物価、為替、株価、政局、外交、新商品の動向などに注視しつつ、しばらくは様子見の状況が続く。
	通信会社（社員）	・年度末で一旦新規需要が落ち着くと想定される。
	通信会社（役員）	・例年3、4月は企業の人事異動や学生の入学などで人が動き、それに伴い契約件数も伸びる時期であり、今後の契約増加に期待している。
	テーマパーク（職員）	・団体の予約状況は、前年同月比でやや鈍い状況である。また、例年3～4月にはある企業団体などの予約が、業績の悪さを反映してか鈍い。
	美容室（経営者）	・2、3か月の短期間で景気が良くなる雰囲気ではない。
	住宅販売会社（従業員）	・現在動いている客数が少ないこと、消費税アップの駆け込み需要にはもう少し期間があること、住宅に関する減税や控除が徐々に減ることもあり、堅実な客層しかいなくなってくると思われる。
	住宅販売会社（従業員）	・個人の購買意欲が改善する要因がない。
やや悪くなる	スーパー（店長）	・良くなる様子が見られない。新生活、新入学シーズンでもあり、通常月以上に出費がかさむことから、食費については財布のひもが固い。
	スーパー（総務担当）	・前年は東日本大震災関連の需要で、3月中旬より売上が増加している。4月以降もその傾向が続いたため、今年の売上は低下する見込みである。
	コンビニ（経営者）	・前年は、東日本大震災があり、特需とも思える商品があったが、今年はそのような商品がなく、確実に売上は落ちると考えられる。
	衣料品専門店（総括）	・消費税増税など先行きが不安定でよくなる要素が見当たらない。
	乗用車販売店（経営者）	・春先需要期を終えると、購入意向の客が減少する。
	観光型旅館（スタッフ）	・予約状況は、2月が94%、3月が87%、4月が77%と前年12月までの勢いがなく、間際予約も弱くなってきた。
	タクシー運転手	・この冬は例年になく大雪であったため利用客数は良かったが、この先は良い材料はなく期待はできない。前年の東日本大震災のころよりは良くなると思うが、冬の時期が良かった分やや悪くなると予想している。
	通信会社（営業担当）	・スマートフォンの必要な客はある程度購入を終えていると思われる、今後停滞期に入る。
	住宅販売会社（従業員）	・降雪による展示場への来場者が減少し、今後の商談件数に影響がでることは必至である。また、情報量の減少による新規見込先が減少するなか、住宅展示場にきたものの未成約の客と商談を始めようとすると、長期間にわたる場合が多く、降雪の影響は大きい。
	悪くなる	一般小売店〔事務用品〕（営業担当）
企業動向関連	良くなる	-
	やや良くなる	繊維工業（経営者）

	一般機械器具製造業（経理担当）	・為替、株価がこのまま順調に戻ってくれば良くなる。
	一般機械器具製造業（総務担当）	・欧州の信用不安が落ち着き、また円高も是正傾向が見られるので設備投資が動くと考えている。
	通信業（営業担当）	・ここへ来て、企業の設備投資が伸びている。
	金融業（融資担当）	・欧米経済の不服感、国内経済についても株高傾向、円高の不服感などから足元の不安材料が払しょくされた。また、復興需要への期待もある。
	不動産業（経営者）	・個人からの問い合わせ、法人からの問い合わせが増加している。
変わらない	食品品製造業（企画担当）	・外部要因に大きく変化はないため、現在の環境が続いていくものと思われる。ただ、主原料がすでに10%前後高騰しているため、この原料が入庫し影響が出始める半年先ごろから動向を注視していく必要があるとの認識でいる。
	化学工業（総務担当）	・社内の打合せのなかでは、受注量について現状維持で推移予定との報告があった。
	プラスチック製品製造業（企画担当）	・まだ先行きが読めない状況が続いている。
	精密機械器具製造業（経営者）	・各社春先の繁忙期が、以前のレベルでもなく過ぎようとしており、厳しい状況が当分続くようである。為替の状況もいったん戻したものの、一時的なものとの見方が強い。
	輸送業（配車担当）	・デフレが急激に解消されることに期待が持たず、購買意欲も引き続き低下傾向にある。また、原油価格が急激に安くなることも考えられず、コスト増により良くなることは考えられない。
	金融業（融資担当）	・為替相場や株式相場にやや修正の動きがみられ、将来的には前向きな見方もできるが、この3か月では大きく変化はないであろう。
	新聞販売店〔広告〕（従業員）	・1、2月で出稿累計が前年比100%となったが、3月の予測がつかない。
	司法書士	・前年末に続き、大型の企業倒産があり、取引先である地元企業に影響がでると予測している。
やや悪くなる	繊維工業（経営者）	・円高やユーロ安に歯止めがかかり、受注の改善が期待されるものの、先行き不透明感は引き続き強い。
	金属製品製造業（経営者）	・2～3か月先の受注の入り具合からすると、現状より悪くなる。
	電気機械器具製造業（経理担当）	・国内向けのもは機能的に高付加価値を求められており、海外はもちろん国内でも他社で製造できないものだけが生き残るのではないかと予測している。従来品の延長線上で考えては今後うまくいかない。
	輸送業（配車担当）	・軽油価格が上昇している。現在でも厳しい状況だがこれ以上の価格上昇で利益が出せなくなる。
	税理士（所長）	・年度末が近いこともあって、官公庁の動きが鈍くなっており、需要も新年度になりそうである。大手企業も新年度をにらんだ様子見の状況にある。中小事業者にとり、大手、官公庁からの需要が低下しつつある状況では、先の見通しがつかなくなっている。より早く新しい方向性が決まれば、明るい見通しがつくであろう。
悪くなる	建設業（経営者）	・東日本大震災の復興に予算が振り向けられることは、十分理解するところであるが、その分、そのほかの地方に公共事業の予算がつかなくなるのは必定である。少なくなるパイをめぐる競争は、地方の建設産業を疲弊退させ、住民の安心、安全を守るという建設産業の第一義的責任が果たせなくなるであろう。
	建設業（総務担当）	・年度末を迎えており、各社とも受注量確保のため、発注工事が低調ななかで価格競争が一段とし烈な状況が続いており、ますます厳しい状況が予想される。
雇用関連	良くなる	
	やや良くなる	
変わらない	人材派遣会社（役員）	・新卒採用もあり、期待できそうもない。
	人材派遣会社（社員）	・一部ネットワークや携帯アプリなどの技術者のニーズはあるが、全体的にはIT投資も増加傾向が見えず、技術者不足もあり稼働人数は増えると思われない。
	求人情報誌制作会社（編集者）	・大きな雇用の計画がどこからも出てこない状況が続いている。
	職業安定所（職員）	・新規求人数の増加幅が縮小している。
	民間職業紹介機関（経営者）	・小さい人材活用の仕事でも増えていけば期待感があるが、まだ受注数が少なく従来の不況感が続いている。
やや悪くなる	職業安定所（職員）	・ここきて、円高に対する影響が出ており、窓口で休業計画に関する問い合わせが多くなっている。
悪くなる	-	-